

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 7月 23日

【評価実施概要】

事業所番号	0171400278		
法人名	社会福祉法人 函館光智会		
事業所名	老人グループホームシルバービレッジ函館あいの里		
所在地	函館市亀田中野町278-34 (電話) 0138-47-4331		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年5月27日	評価確定日	平成20年7月23日

【情報提供票より平成20年5月1日事業所記入】

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 3年3月20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	16 人	常勤	14人, 非常勤 2人, 常勤換算 5.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造亜鉛メッキ鋼板葺 造り		
	1階建ての	1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,500 円	その他の経費(月額)	20,000~30,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	380 円	おやつ	90 円
	または1日当たり 1,170 円			

(4) 利用者の概要 (5月1日現在)

利用者人数	17名	男性	0名	女性	17名
要介護1	0	要介護2	0		
要介護3	0	要介護4	4		
要介護5	13	要支援2	0		
年齢	平均 84.5歳	最低	61歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひでしま内科・胃腸科クリニック、函館赤十字病院 他
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

遙かに五稜郭公園タワーを望む自然豊かな環境の中に、当事業所は立地している。運営者は全国グループホームの先駆者として、専門職教育に力を注ぎ、地域福祉発展のため努力している。利用者第一の理念に基づき、高齢利用者の尊厳を守るため、「ゆっくり、いっしょに、たのしく」をモットーに、日々研鑽を重ねた職員が、優しさときめ細やかなケアで、利用者が生きがいを感じられるよう努力している。更に家族とのコミュニケーションを積極的にとり、信頼関係を築くとともに、行政との関係も非常に良い。多忙な運営者にかわり留守を守る職員の一層の努力に期待する。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	利用者と職員は同じテーブルで食事をする点については改善されている。地域との連携については利用者が重度の方々という点もあり、地元の方々との交流はむずかしい。今後も職員の知恵を出し合い、工夫されることを望む。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	理事長を含む自己評価作成構成員全員が意見を出し合い、これを記録し、認知症ケアに取り組む体制作りを推進している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	「食事を職員と一緒に」「地域との連携」という2点について外部評価による改善が討議されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	前回調査時より現在まで、特に苦情等はないが、小さな要望はその都度解消し、全職員がより認知症ケアサービスの提供に真剣に取り組んでいる。尚、運営推進会議の中で話し合われた「ホーム便り」の発行は検討中である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町内会に入会しており、町内行事も可能な限り参加を望んでいるが、利用者が要介護4、5と重度でもあり、祭りなどには、全員車椅子にハッピー姿で参加し10分程度であるが、雰囲気のみ感じていただいている現状である。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者主体の生活を第一に考えて、「ゆっくり、いっしょに、たのしく」をモットーに時間に縛られないケアに努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営上の方針や目標等を具体化し、日々実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の祭り等には利用者は一応全員参加するが、重度であるなど身体的理由により、地域交流の積極参加は望めない。	○	町内会に入会しており、町内行事について可能な限り参加を望んでいるが、重度の利用者が多いため参加はむずかしい。祭りにはホーム前まで、小型のみこしが来てくれるが車椅子にハッピー姿で短時間参加するのが精一杯である。今後も職員は知恵を出し合って工夫されることを望む。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者と共に毎日のミーティングにおいて、自己・外部評価の意義を話し合い、チームケアの大切さを学び、サービス向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在までで10回目の開催になった。約20名の出席者のもと、内・外部評価などについて検討し、より良い改善につとめている。しっかりと議事録に記載している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との連絡は密にとり、認知症についての相談業務など受託している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	保健面など日常の様子を撮った写真と共に毎月定期的に書面を送っている。(ホーム便りを検討中である)。健康状態に変化が見られた場合、家族と相談の上、介護計画の変更に繋げている。金銭についても毎月報告し、面会時にサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、苦情はないが、細やかな要望は早速改善につなげている。家族が気がかりなこと等、気軽に話せるよう面会時の声かけなど積極的に行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の意向を十分に聞いており、ユニット内でも異動はしていない。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員全体を把握しており、それぞれに応じた研修を受講出来るよう努力している。札幌方面や市内連絡会等で、職員は働きながら学べる事によるこびを感じている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修・市内連絡会等の研修時に、同業者との交流があり、互いに質の向上に取り組んでいる。結果は全職員に報告している。互いに事業所訪問を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスの利用については、家族と相談を密にし、本人が安心して利用出来るよう努力している。現在まで、病院から直接利用開始となる方が多い。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々共に過ごすことにより、わずかな表情からも、本人の意向を感じられるようになった。支え合う関係が築かれてきている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との関わりから、言葉がなくとも、表情や仕草から思いや意向を把握するように努めている。普段話さない利用者が意見を言うこともあり、表情も豊かになっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月3～4回のペースで管理者、職員で独自のアセスメントシートを活用し、家族の要望等を取り入れ、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画6ヶ月と明示しているが、利用者の状況変化に応じた介護計画の見直しを随時行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への定期的な受診は無論のこと、所用での外出、家族の宿泊、お寺参り等、利用者、家族の希望にそって支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医の往診が週1回あるが、かかりつけ医以外の他科の診療についても、送迎し適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用時の話し合いにより同意を得ているが、状態の変化により、直接家族と話し合いを持ち、その内容は全職員が把握している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	特に言葉遣いには十分気をつけている。個人情報に係る記録等は厳重に保管され、職員は慎重の上にも慎重に取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常時本人の意向に合わせ、喜怒哀楽を共に考え支援している。また、本人のペースに合わせた時間を大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度は全員は無理であるが、後のテーブル拭きは出来る方もいる。マンツーマンでの食事介助は、職員の優しさを込めて取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日はおおよそ月曜日・木曜日となっているが、希望があれば、その他の曜日でも入浴が可能である。但し皮膚に疾患などある時は、順番をつけ考慮し、出来るだけ楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族から利用者の生活歴などを聞いて、出来る限り、よろこびを感じながら気晴らしになるよう支援している。ただし、その日の身体の状態を考慮した上の支援である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お墓参りなどは家族が迎えにくるが、ドライブ・お寺参り・買物など、利用者の希望にそって支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関ドアは自動ドアになっていて、ダブルタッチしなければ開かないシステムである。夜間は戸締りをするが、日中の施錠はない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、設備等取扱い訓練、消火器使用訓練、避難誘導訓練等の指導を受けている。尚今年度から夜間想定訓練を予定している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個票綴にて、月1回の体重測定、排尿・排便量、水分・食事摂取量、薬投与状況他が記録され、栄養士によるバランスのとれた食事を提供している。全職員が個人の摂取状況を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはゆったりと広い廊下が続き、更には長く勾配の緩い斜路へと連なっている。この斜路は冬期間、利用者の恰好な運動場となっている。不快な音や光もなく、静かで居心地よく過ごせるように工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	6畳程の居室には2メートル幅の押入がついており、またテレビ、冷蔵庫、椅子、タンス等、それぞれ馴染みの品々が持ち入れられ、安心感を感じさせる居室になっている。		

※  は、重点項目。